

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 1 区分

【発行日】平成27年10月15日 (2015.10.15)

【公開番号】特開2015-6986(P2015-6986A)

【公開日】平成27年1月15日 (2015.1.15)

【年通号数】公開・登録公報2015-003

【出願番号】特願2014-167068(P2014-167068)

【国際特許分類】

C 0 3 C 27/12 (2006.01)

C 0 8 L 101/00 (2006.01)

C 0 8 L 29/14 (2006.01)

【F I】

C 0 3 C 27/12 L

C 0 8 L 101/00

C 0 8 L 29/14

【手続補正書】

【提出日】平成27年9月1日 (2015.9.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

熱可塑性樹脂と、

錫ドープ酸化インジウム粒子と、

酸化タングステン粒子と、

フタロシアニン化合物、ナフタロシアニン化合物及びアントラシアニン化合物の内の少なくとも 1 種の化合物とを含む、合わせガラス用中間膜。

【請求項 2】

前記錫ドープ酸化インジウム粒子の含有量が 0.0001 重量%以上、1 重量%以下である、請求項 1 に記載の合わせガラス用中間膜。

【請求項 3】

前記酸化タングステン粒子の含有量が 0.00001 重量%以上、0.1 重量%以下である、請求項 1 又は 2 に記載の合わせガラス用中間膜。

【請求項 4】

フタロシアニン化合物、ナフタロシアニン化合物及びアントラシアニン化合物の内の少なくとも 1 種である前記化合物の含有量が 0.000001 重量%以上、0.05 重量%以下である、請求項 1～3 のいずれかに記載の合わせガラス用中間膜。

【請求項 5】

フタロシアニン化合物、ナフタロシアニン化合物及びアントラシアニン化合物の内の少なくとも 1 種である前記化合物が、フタロシアニン化合物である、請求項 1～4 のいずれかに記載の合わせガラス用中間膜。

【請求項 6】

フタロシアニン化合物、ナフタロシアニン化合物及びアントラシアニン化合物の内の少なくとも 1 種である前記化合物が、バナジウム原子を含有するフタロシアニン化合物である、請求項 5 に記載の合わせガラス用中間膜。

【請求項 7】

前記熱可塑性樹脂が、ポリビニルアセタール樹脂である、請求項 1 ~ 6 のいずれか 1 項に記載の合わせガラス用中間膜。

【請求項 8】

可塑剤を含む、請求項 1 ~ 7 のいずれか 1 項に記載の合わせガラス用中間膜。

【請求項 9】

紫外線遮蔽剤を含む、請求項 1 ~ 8 のいずれか 1 項に記載の合わせガラス用中間膜。

【請求項 10】

アルカリ金属塩及びアルカリ土類金属塩の内の少なくとも 1 種の金属塩を含む、請求項 1 ~ 9 のいずれか 1 項に記載の合わせガラス用中間膜。

【請求項 11】

第 1 の合わせガラス部材と、

第 2 の合わせガラス部材と、

請求項 1 ~ 10 のいずれか 1 項に記載の合わせガラス用中間膜とを備え、

前記第 1 の合わせガラス部材と前記第 2 の合わせガラス部材との間に、前記合わせガラス用中間膜が配置されている、合わせガラス。